

# 公益社団法人 福岡県トラック協会 定款

## 第1章 総則

(名称)

**第1条** この法人は、公益社団法人福岡県トラック協会と称する。

(事務所)

**第2条** この法人は、主たる事務所を福岡県福岡市に置く。

2 この法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に置くことができる。これを変更又は廃止する場合も同様とする。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

**第3条** この法人は、国民生活と経済活動に不可欠な物資の輸送を担う貨物自動車運送事業の公正な競争による健全な発展を促進することで、安定した輸送力を継続的に確保するとともに、安心して安全な輸送サービスの提供による国民生活の向上と地域経済の発展に寄与し、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。

(事業)

**第4条** この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 自動車交通における輸送の安全の確保に資する事業
- (2) 自動車交通における環境保全に有用な事業
- (3) 貨物自動車運送事業に係わる地方貨物自動車運送適正化事業
- (4) 緊急救援物資輸送及び災害対策支援に関する事業
- (5) 輸送サービスの改善に関する事業
- (6) 貨物自動車運送事業を振興する事業
- (7) 貨物自動車運送事業及び貨物利用運送事業の調査、研究、統計に関する事業
- (8) 貨物自動車運送事業に関する啓蒙、宣伝等の広報事業
- (9) 法令遵守の推進に資する会員相互の連絡協調を図る事業
- (10) 貨物自動車運送事業者の全国団体との連携及び全国事業への参画
- (11) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## 第3章 会員

(法人の構成員)

**第5条** この法人に次の会員を置く。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した福岡県内で貨物自動車運送事業（貨物軽自動車運送事業を除く）を営む者及び福岡県外に本社を置く事業者の県内における主たる事業所
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同して入会した貨物利用運送事業を営む者及びこの法人が行う事業を賛助するために入会した者

2 前項の会員のうち、正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。

(会員資格の取得)

**第6条** この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申し込みを行わなければならない。

(経費の負担)

**第7条** この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になった時及び毎年、会員は総

会において別に定める額を支払う義務を負う。

(任意退会)

**第8条** 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

**第9条** 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この法人の定款、規則又は決議等を遵守しないとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

**第10条** 前2条の場合のほか、会員は次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 正会員が第5条第1項第1号の資格を喪失したとき。
- (2) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。
- (3) 第7条の支払い義務を1年以上履行しなかったとき。
- (4) 総正会員が当該会員の会員資格の喪失に同意したとき。
- (5) この法人が解散したとき。

(会員資格喪失等に伴う権利及び義務)

**第11条** 会員が第10条の規定によりその資格を喪失したときは、この法人に対する会員としての権利を失い、義務を免れる。ただし、未履行の義務は、これを免れることができない。

- 2 この法人は、会員がその資格を喪失しても、既納の入会金、会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。
- 3 この法人の資産に対し、会員は何等の請求をすることはできない。

## 第4章 総会

(構成)

**第12条** 総会は、正会員をもって構成する。

- 2 前項の総会をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員総会とする。

(権限)

**第13条** 総会は、次の事項を決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任及び解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

**第14条** 総会は、定時総会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

**第15条** 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を記載した書面により、総会の招集を請求することができる。

(議長)

**第16条** 総会の議長は、当該総会において正会員の中から選出する。

(議決権)

**第17条** 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

**第18条** 総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

(書面表決等)

**第19条** 総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

2 前項の場合における前条の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

(議事録)

**第20条** 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び出席した理事のうちからその総会において選任された議事録署名人2名は、前項の議事録に記名押印する。

## 第5章 役員等

(役員の設定)

**第21条** この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 42名以内
- (2) 監事 5名以内

2 理事のうち1名を会長、4名以内を副会長、1名を専務理事、3名以内を常務理事とする。

3 会長を一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とし、専務理事と常務理事を同法第91条第1項第2号上の業務執行理事とする。

(役員を選任)

**第22条** 理事及び監事は、総会の決議によって正会員の中から選任する。ただし、総会で必要と認められた時は、正会員以外から4名以内を選任することができる。

2 会長、副会長及び専務理事並びに常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 会長、副会長について、理事会で必要と認められたときは、会員以外の学識経験者を総会で理事に選任した後、理事会で決議することができる。

(理事の職務及び権限)

**第23条** 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、専務理事及び常務理事は理事会で別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 副会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行し、会長を補佐する。

(監事の職務及び権限)

**第24条** 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

(役員任期)

- 第 25 条** 理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。
- 2 監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。
  - 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
  - 4 理事又は監事は、第 21 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

- 第 26 条** 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(役員報酬等)

- 第 27 条** 理事及び監事は、原則として無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、総会において定める総額の範囲内で、総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(責任の免除又は限定)

- 第 28 条** この法人は、役員一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 111 条第 1 項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。

(顧問)

- 第 29 条** この法人に、任意の機関として 5 名以下で顧問を置くことができる。
- 2 顧問は、理事会において任期を定めた上で選任する。
  - 3 顧問は、無報酬とする。ただし、その職務を行なうために要する費用の支払いをすることができる。

(顧問の職務)

- 第 30 条** 顧問は、理事会で意見を述べることができる。

## 第 6 章 理事会

(構成)

- 第 31 条** この法人に理事会を置く。
- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

- 第 32 条** 理事会は、次の職務を行なう。
- (1) この法人の業務執行の決定
  - (2) 理事の職務の執行の監督
  - (3) 会長、副会長及び専務理事並びに常務理事の選定及び解職

(招集)

- 第 33 条** 理事会は、会長が招集する。
- 2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、副会長が理事会を招集する。

(議長)

- 第 34 条** 理事会の議長は、会長がこれに当たる。  
2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、副会長がこれに当たる。

(定足数)

- 第 35 条** 理事会は、理事の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

(決議)

- 第 36 条** 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

(議事録)

- 第 37 条** 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。  
2 当該理事会に出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第 7 章 委員会

(委員会)

- 第 38 条** 理事会は委員会を設置し、諮問することができる。  
2 委員会は、理事会から付託された事項につき協議し、理事会に答申する。  
3 委員会に関する必要な事項は、理事会が別に定める。

## 第 8 章 事務局

(設置等)

- 第 39 条** この法人に事務を処理するため、事務局を設置する。  
2 事務局には、所要の職員を置く。  
3 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が理事会の承認を得て別に定める。

## 第 9 章 資産及び会計

(事業年度)

- 第 40 条** この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

- 第 41 条** この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。  
2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

- 第 42 条** この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。
- (1) 事業報告
  - (2) 事業報告の附属明細書
  - (3) 貸借対照表
  - (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
  - (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
  - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第 1 号、第 3 号、第 4 号及び第 6 号の書類については、定時総会に提出し、第 1 号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の種類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、会員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事の名簿
- (3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

**第43条** 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

## 第10章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

**第44条** この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

**第45条** この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(公益認定の取り消し等に伴う贈与)

**第46条** この法人が公益認定の取り消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取り消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

**第47条** この法人が清算する場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第11章 公告の方法

(公告)

**第48条** この法人の公告は、電子公告により行う。

- 2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法による。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 この法人の最初の会長は、原 重則とする。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第40条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。